

令和7年度家庭教育支援研修会 開催報告

日時 令和7年8月22日(金)13:30~16:30

会場 米原市役所1階コンベンションホール

参加人数 88名(会場42名、オンライン46名)

内容

○実践事例紹介：橋本市家庭教育支援チーム「ヘスティア」の取組
事例紹介者：森田 知世子 氏、東 美樹 氏

○感想交流・質疑応答

○講演：「つながろう！家庭・学校・地域・行政・福祉 切れ目のない支援のために」
講師：善野 八千子 氏 高野山大学文学部教育学科特任教授
奈良学園大学名誉教授（前）社会・国際連携センター長

○感想交流・質疑応答

当日の様子



【実践事例紹介：森田 知世子 氏、東 美樹 氏】



【ヘスティアさん グッズ紹介】



【感想交流】



【講演：善野 八千子 氏】

【参加者の感想より】

I. 実践事例紹介

- ヘスティアさんはこれまでの多くのアウトリーチ型支援を継続的に行われ、子どもや保護者に対する支援の輪が広がり、信頼される存在になったのだと感じました。特に絵本のブックスタートや就学時アンケートは、新規に転入してこられる家庭も多い中で、家庭にとって安心して相談できる居場所だったのだと、大変勉強になりました。広報も、子育て世代に多く読んでもらえるようチラシを三つ折りにしたり、インスタグラムで気軽に始めてもらえるようにしたりと、随所に工夫があると思いました。苦労も沢山あったかと思いますが、今の現場に生きる内容でした。
- 業務削減、働き方改革という言葉が飛び交う学校現場にいる自分と、半分ボランティアで、地域のあらゆる家庭とつながりを作り、もっともっとと手を差し伸べられる方法や支援の仕方を考えられている皆さんの働き方に、学ぶべき姿勢がありました。様々な家庭や考え方の人たちと、よりよい方法でのつながり方、支援の仕方を模索しながら、必要ならばすぐそばで、そうでなければ見守るかたちで、つながり続けておられることに、学校での保護者、子どもたちとの向き合い方を考えさせられました。
- たくさんの取組をされていて、家庭教育に通ずる先進的な取組について知る事ができました。教育現場として、『つながりを大事にして、ともに楽しみ、一緒に考える』という考え方が共感できるとともに、大切にしていきたい考え方だと感じました。子どもが自立した大人に成長できるように、保護者が笑顔で子育てできるように教育の立場から応援できる教員でありたいと改めて感じました。

II. 講演

- 「子どもや家庭、そして職員の支援について旧3Kから新3K(可視化、共有化、効率化)を大切にしていこう」という意識を高めることができました。その中で、様々な家庭の困り感や課題を考えて関わってこられた先生の経験が非常に学びになりました。
- 地域づくりの3つの視点『人づくり、まちづくり、保育・授業づくり』について学ぶことができました。善野先生の話し方や聞き方、受け答えの仕方、相手の称賛の仕方などを今後の授業づくりに生かしていきたいと思います。また、未来を生きる子どもたちのため、家庭教育支援や幼児教育、関係機関との連携・協働が重要であることを再確認しました。今日学んだ傾聴のポイントや受容と共感の言葉がけを実践していきたいと思います。
- 専門的なスキルや理念を丁寧に教えていただき、ありがとうございました。夏休み中も気になる生徒が多いですが、その生徒だけでなく、色々な家庭背景や保護者の思いを傾聴しながら、地域や保幼小、高校と共に連携して一貫した教育が重要であることも改めて知りました。家庭教育への働きかけ方(「なぜ」ではなく「どうすれば」)やIメッセージで声をかけることも、今後のAIが職業を担う可能性も高い中で、教師ができる役割なのだと理解しました。たくさんの励ましの言葉をいただき、2学期からもがんばろうと強く思いました。

III. 感想交流

- 関わったことのない方と話ができてよかったです。
- 短時間ではありましたが、話す機会があるのはよかったです。遠いところから来た値打ちがありました。ペアの方に感謝です。
- いろいろな立場の人と話し合うことで、共感できることを見つけたり、新たな価値観に気づいたりすることができました。